LEISURE レジャー LEISURE

県沿岸1周 カヌーの旅

（随時掲載）

今回は、臼杵市大泊から楠屋鼻をぐるっと東へ回り、津久見市楠屋までの約12㌔のコースを紹介する。

カヌー旅　臼杵市大泊を出発するKさん

鮮やか 岩と森の風景

臼杵・大泊～津久見・楠屋

心地よい波に揺られ

旅 Travel

楠屋鼻の突端を右に見ながら回り込む

アウトランドカヌー部のカヌー日和（べたなぎ）いでいると艇の舞で、左のS氏と2人で大泊の上にはなかなかお目にかか浦小学校前の海岸を午前れないものだ。

11時半に出発。左には津久見島が、右には臼杵・津久見市境のりょう線がずっと見えている。天気予報では波高は0・5㍍以下で、強い高気圧が張り出し、快晴となっていたのだが、思いのほか波と風がある。うってつけのカヌー日和（べたなぎ）いでいると艇の舞で、左あるのだろう。不均一な波にてこずりながらも、か右に少しずつ曲がってくることがある。そんな約15分で、柿ノ浦北の岬時は、パドルを持つ手の位置を少しスライドする左を進み、おびただしい数の養殖ブイの中を縫うようにしていく。

ところで、カヌーの中でもファルトボート（組み立て式カヌー）の場合、コンパクトになる半面、FRP（繊維強化プラスチック）艇と違って毎回組み立てるので、底面の露岩と照葉樹の森との対キール（竜骨）と船体布の位置が微妙にずれてくる。そのため、長時間こいでいると、すぐ近くに巣がくに見えていた半島が、

を通過。正面遠くに飛潮鼻が見えてきた。

次第に波、風とも収まってきた。ありがたい。約30分で、坪江北の岬へ。眼前を小魚の群れが約10分足らずで破磯北の何度もジャンプする。陸岬へ。相変わらず順調に地からは、この辺りが津久見島への直線としてのり上下動するカヌーは最短地点だ。次の深江港まるでメリーゴーラウンドに乗っているかのよう一気に横断し、約10分で深江北の岬。荒々しいで心地いい。ルートは緩やかに左旋回しながら約25分で、飛潮鼻に。いつも感じるのだが、海上還はトンビのつがいが舞っている。すぐ近くに巣がくに見えていた半島が、ゆっくりだが眼前いっぱいになり、鏡面状態とないに迫ってくるのは日常では味わえない不思議な感覚だ。

約30分後、こぎ始めてから約2時間40分で楠屋約15分で、市境通過。港着。S氏の日焼けした奇岩群が現れる。その後顔は充実感の笑みでいっぱいだった。＝アウトドア進路が南西に変わると同時に海面は急に穏やか　カヌー部（大分市）＝

全国の名物料理いっぱい
休暇村南阿蘇でフェア

熊本県高森町の「休暇村南阿蘇」は11月30日まで、1泊2食4980円（税別）の格安料金でグルメが楽しめる「全国うまいもんフェア」を実施している。

夕食は通常の「肥後丸かじりバイキング」に加え、全国各地の休暇村から集めた名物料理がブラス。日本海産「ズワイガニ」も登場。重さを選べるステーキや馬刺し、田楽、新高麦潰汁などの郷土料理も実。

休暇村南阿蘇のバイキング

土曜日は休前日は000円高。予約問い合わせは休暇村阿蘇（0967・2111）へ。